

北東アジア石油・天然ガス市場の着眼点

-中国のエネルギー需要急増とロシアの資源ポテンシャル-

Key Drivers for Northeast Asian Oil and Natural Gas Markets - China's Surging Energy Demand and Russia's Resource Potential -

伊藤 庄一*

Shoichi Itoh

中国のエネルギー需要急増の解決は、21世紀の世界にとり焦眉の課題の1つである。

北東アジアでは、いみじくも世界屈指の産油・産ガス国であるロシアがこれまで広域にわたり未開発であった、中国と隣接する東シベリアと極東地域（以下、2つ合わせて「東部地域」と略。）の開発を急ぎ始めている。

中国とロシアを含む北東アジアにおいて、将来的に構築されるエネルギー需給網の帰趨は、もはや地域レベルの問題に止まらず、世界のエネルギー市場の安定やエネルギー安全保障問題に様々な影響を与えることになる。

近年、北東アジアの原油・天然ガス市場におけるロシアのプレゼンスが拡大しつつある。原油については、従来のサハリン-1及びサハリン-2からの輸出に加え、2009年末にESPO（東シベリア～太平洋）原油パイプラインの第1段階が完成し、その終点から更に2,000km 鉄道輸送することにより、太平洋岸からの原油輸出が開始した。第2段階パイプライン（第一段階の鉄道輸送区間）についても、2013年までに送油を開始することが予定されている。

天然ガスについては、2009年春にサハリン-2からのLNG出荷が開始したが、サハリン-1からの天然ガスについては、現時点で輸出先が未決定である。ロシアは現在、中国や朝鮮半島へのガスパイプライン建設構想について、当該国それぞれと交渉中だが、具体的な青写真はまだ出ていない。

ロシアは東部地域の原油・天然ガス開発による東方進出を急ごうとしている。しかしながら、ロシアにとり中国との間の地政学的な相互不信が最大のボトルネックとなっている。

2010年時点で、日本の原油輸入とLNG輸入に占めるロシアの割合は、各々7%、9%を占めた。つまり、ロシアか

らの輸入によって、これら化石燃料の輸入ルートを多様化するという、日本が従来から追求してきた目的は達成された。

今後は、ロシアの供給ポテンシャルの利用法に関し、日本の需要のみの観点から捉えるのではなく、中国のエネルギー需要急増の解決に利用することも考えるべきである。仮にロシアから中国への原油や天然ガスの輸出量を大幅に増大させることが出来るならば、日本経済にも直接的に影響を及ぼす、国際市場における原油・天然ガス価格の安定化にも寄与し得る。

原油と天然ガスに関し、論理的に考えれば、中国の需要急増とロシアの開発ポテンシャルは相互補完性が高い。その潜在的可能性を実現するにあたり、大きなボトルネックが2つある。1つは、すでに見た中口間の地政学対立である。もう1つは、東シベリアの油田・ガス田の開発（確認埋蔵量確保のための探査から、商業生産までを含む）の推進に伴う巨額な投資額及び投資リスクである

これら2つの課題を克服するには、一案として、中口を含む多国間による国際コンソーシアムを構築することが考えられよう。そうすることにより、まず油田やガス田開発における投資リスクの分散や中口間の地政学対立を軽減する可能性が生まれよう。

原油について今後最大の課題は、東シベリアから太平洋に至るパイプラインが既に出来ているので、そこに流し込む生産量の増大である。

天然ガスについては、地域大でのベストな供給網の構築を目指して、消費国間および産消国間で協議を開始する必要がある。

*日本エネルギー経済研究所戦略研究ユニット
〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ
e-mail shoichi.itoh@tky.ieej.or.jp